

平成21年10月26日

各 位

上場会社名 JFEコンテナ株式会社
代表者 代表取締役社長 中島 廣久
(コード番号 5907)
問合せ先責任者 企画部長 村上 伸二
(TEL 03-5822-6703)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年7月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,900	△540	△600	△700	△24.43
今回発表予想(B)	12,168	△75	△196	△185	△6.48
増減額(B-A)	1,268	465	404	515	
増減率(%)	11.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	15,817	1,066	1,005	524	18.30

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	23,700	80	0	700	24.43
今回発表予想(B)	26,100	740	580	970	33.86
増減額(B-A)	2,400	660	580	270	
増減率(%)	10.1	825.0	—	38.6	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	27,597	858	697	△499	△17.43

修正の理由

国内の新缶ドラムは、昨年の世界同時不況による急激な景気後退に伴い大幅に需要が減少、本年2月を底に、緩やかな回復傾向にありましたが、その後、主要需要家である化学・石油業界では、中国向け輸出を中心に活発な需要が続いたため、ドラム缶の需要は予想を上回るペースで回復し、第2四半期では前年同期比80%程度の水準まで回復いたしました。

また、中国におきましても、政府の景気対策や上海万博に向けたインフラ整備効果もあり、第2四半期に入りドラム缶需要が急回復しております。

販売環境については依然不透明感が残るものの、需要家の生産動向、プラントの稼働率の状況等から、今後のドラム缶の需要は現状規模の水準で推移するものと予想されます。

これらの環境認識の下、当社のドラム缶の販売数量は前回予想時の見通しを大幅に上回り、増収増益となることが見込まれるため、業績予想を上方修正いたしました。

(注)上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上